

第3学年 算数科学習指導案

指導者

1. 単元名 「1けたをかけるかけ算の筆算」
2. 単元目標

算数への 関心・意欲・態度	○ (2、3位数) × (1位数) の計算方法を考えようとする。筆算や暗算の良さに気付く。
数学的な考え方	○ (何十・何百) × (1位数) の計算の仕方を、10や100を単位として考えることができる。(2、3位数) × (1位数) の計算の仕方を、数の仕組みや計算のきまりをもとに考えることができる。
数量や図形に ついての技能	○ (2、3位数) × (1位数) の計算を筆算や暗算でできる。
数量や図形に ついての知識・理解	○ (2、3位数) × (1位数) の計算の仕方を理解している。

3. 学習指導計画 (4時間目/全14時間)

- (1) 何十・何百のかけ算 (1)
- (2) (2けた) × (1けた) の筆算 (6)
  - ① (2位数) × (1位数) の計算を位ごとに分けて考える。
  - ② 繰り上がりがなく、答えが2位数になる (2位数) × (1位数) の筆算の仕方を考える。
  - ③ 十の位に繰り上がりがあり、答えが2位数になる (2位数) × (1位数) の筆算の仕方を考える。・・・【本時】
  - ④ 百の位に繰り上がりがあり、答えが3位数になる (2位数) × (1位数) の筆算の仕方を考える。
  - ⑤ 百の位にも十の位にも繰り上がりがあり、答えが3位数になる (2位数) × (1位数) の筆算の仕方を考える。
  - ⑥ (練習) をする。
- (3) (3けた) × (1けた) の筆算 (4) (4) 暗算 (1)
- (5) たしかめしよう (1) (6) ふく習 (1)

4. 課題解決のための手だて

本学級の児童は、学習に真面目に取り組むことができ、作業や計算処理を丁寧に行うことができる。しかし、問題把握、見通しをもつことが困難な児童が多く、自分の考えをもてななかったり、作業や理解に時間がかかったりする。また既習学習が定着しておらず、解決のために必要な内容が身に付いていないことから、自分の考えに対して自信がない児童が多い。毎時間の学習では、「できた!」「わかった!」という児童がいるものの、個人で問題解決に取り組むとできない児童が多くおり、分かった気になっているだけで学習が定着していない様子が見られる。そこで、全児童が確実に見通しをもって主体的に問題解決へ取り組み、友達との話し合いを通じて考えを広げ、深め、定着させるための手だてが必要であると考える。

【手だて1】個人思考までの流れについての工夫

- 前時の復習を丁寧に行い、筆算は考え方を簡単にしたもの手順であることを想起させ、くり上がりのある筆算を手順でやろうとすると、くり上がりの処理で手が止まる。止まったところで筆算の考え方でやってみようという風に考え方に注目させる。

【手だて2】子どもの考えを深め、広げる話し合いの場の設定

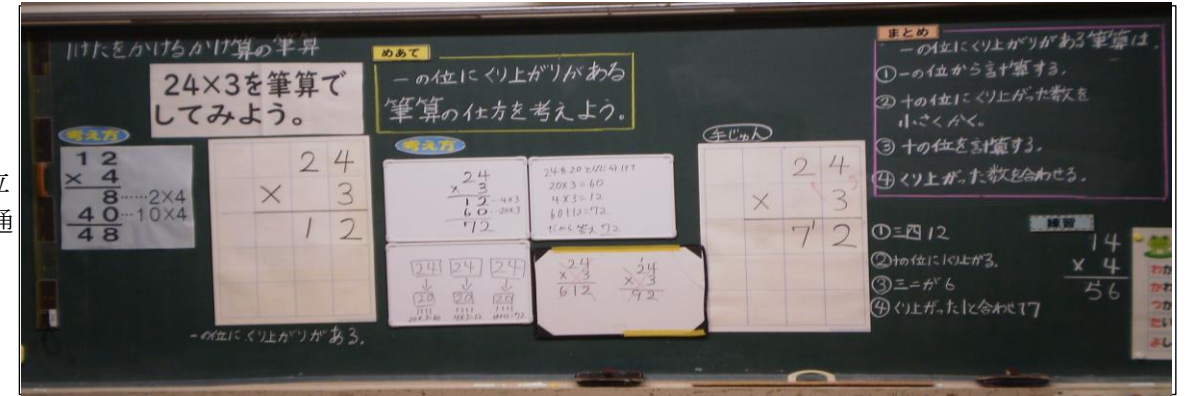
- 必要に応じて、ペアや小グループでの話し合いの場を設定する。また、教師の意図的な発問により、話し合う内容を考え方に絞り、くり上がりの処理の仕方について話し合うことができるようにする。

【手だて3】適用問題と振り返る活動の工夫

- 適用問題をしている際に丸付け法を活用して、机間指導を行い、「できた!」「わかった!」を味合わせるようにする。  
振り返りのポイントを提示して、振り返りをかきやすくする。

5 本時の学習 令和元年 10月 23日 (水)  
第5校時 於: 3年2組教室

- (1) 主眼 一の位に繰り上がりが1回ある場合の(2位数) × (1位数) の筆算の仕方を考える活動を通して、正しく筆算で計算することができる。
- (2) 準備 筆算シート  
ミニボード
- (3) 展開



つかむ・見通す	個人思考	集団思考	まとめ	適用問題・ふりかえり
<p>1. 前時の復習をする。 ○ 前時の復習をする。 (1) 考え方  <math display="block">\begin{array}{r} 12 \\ \times 4 \\ \hline 8 \dots 2 \times 4 \\ 40 \dots 10 \times 4 \\ \hline 48 \end{array}</math></p> <p>2. 問題を把握する。 問題  <math>24 \times 3</math> を筆算でしてみましょう。</p> <p>○ 筆算にかき、一の位の計算で10をこえることに気付かせる。  <math display="block">\begin{array}{r} 24 \\ \times 3 \\ \hline 12 \dots 3 \times 4 \end{array}</math></p> <p>めあて 一の位に繰り上がりがある筆算の仕方を考えよう。</p>	<p>3. 一の位に繰り上がりのある筆算の仕方を考える。 (個人思考) 【予想される児童の考え】 ① <math display="block">\begin{array}{r} 24 \\ \times 3 \\ \hline 12 \dots 4 \times 3 \\ 60 \dots 20 \times 3 \\ \hline 72 \end{array}</math></p> <p>② 20と4に分ける。  <math>20 \times 3 = 60</math>  <math>4 \times 3 = 12</math>                  合わせて72</p> <p>③ 図で表す。  <math display="block">\begin{array}{ccc} \boxed{24} &amp; \boxed{24} &amp; \boxed{24} \\ \downarrow &amp; \downarrow &amp; \downarrow \\ \boxed{20} &amp; \boxed{20} &amp; \boxed{20} \\ \hline \boxed{4} &amp; \boxed{4} &amp; \boxed{4} \end{array}</math> <math>20 \times 3 = 60</math>  <math>4 \times 3 = 12</math>  <math>60 + 12 = 72</math></p>	<p>(グループ) ○ 班ごとに話し合う。 ＜話し合いの視点＞ ○ 筆算の考え方について話し合う。(繰り上がりをどうするか)</p> <p>○ 筆算の考え方を、図や言葉で説明できるようにする。</p> <p>(全体) ○ 同じような考え方をしている班同士は、まとめて一つのボードを取り上げ、全体に伝える。</p> <p>○ 誤答が出なければ、教師が誤答を出し、どこが間違えているかを考えさせる。</p> <p>○ 筆算の手順は、みんなで作り上げるようにする。</p> <p>○ 繰り上がりの1は、十の位の答えの右上に小さく書いて、計算を一行にまとめることができることを伝える。</p>	<p>4. まとめをする。 まとめ 一の位に繰り上がりのある筆算は、 ① 一の位を計算する。 ② くり上がった数を十の位に小さく書く。 ③ 十の位を計算する。 ④ くり上がった数を合わせる。</p> <p>5. 適用問題をする。 ① <math display="block">\begin{array}{r} 14 \\ \times 3 \\ \hline 42 \end{array}</math></p> <p>① 三四12 ② 十の位に1繰り上げます。 ③ 三一が3 ④ 繰り上がった1と合わせて42</p>	<p>6. たしかめをする ○ ⑧の筆算の練習をする。 ○ ノートに、筆算の式をかかなくてもいいように、プリントを用意する。 ○ 机間指導を行い、丸付けを積極的に行う。 ○ 制限時間を設け、活動にメリハリを持たせる。</p> <p>7. ふりかえりをする。 振り返りのポイント わかったこと わかったこと つかえること たいせつなこと よし、やってみよう</p> <p>○ 学習の振り返りをし、学習の学び方や知識の深まり、意欲の向上が見られるものを紹介する。</p>

0

5

10

25

35

45(分)